

# 美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第10回）

## 議事要旨

日 時：令和4年3月17日（木） 10:00～12:00

場 所：WEB会議

### 【議事】

#### 1. 議事

1. 第8回・第9回委員会での指摘事項と対応方針
  2. 令和3年度のモニタリング調査結果
  3. モニタリング調査計画
2. 今後の予定

### 【議事要旨】

#### 1. 第8回・第9回委員会での指摘事項と対応方針

事務局説明 ■ これまでの委員会での指摘に対する対応を説明

- 主な意見等 ● 参考資料 p. 14 について、経年土砂収支を見ると流入量に対し、バイパス土砂量が少なく、大部分がダム湖に堆積しているものと考えられる。排砂施設を有効活用するためにも、より多くの土砂がバイパスに流入する工夫が必要。また、バイパスとは直接関係ないが、今後の気候変動による外力増大に向けた対策として、より高濃度の濁水を排出できるように放流管の改修等を行う際は、放流管をより下部に設置する等工夫するとよい。（鈴木委員）
- 下流環境への影響も考慮しつつ、検討する。（事務局）
- 参考資料 p. 21 の 40m 案はスムーズにバイパス入っていると評価できる。（鈴木委員）
- 参考資料 p. 22 の Q-SS 関係について、流量が  $200\text{m}^3/\text{s}$  を超過すると、傾きが緩やかになっているように見えるため、ダム流入量  $200\text{m}^3/\text{s}$  を境に関係式を別々に作成し傾向を把握する必要がある。（鈴木委員）

#### 2. 令和3年度のモニタリング調査結果

事務局説明 ■ 令和3年7月出水後のモニタリング調査結果について説明

- 主な意見等 ● 今年度はストックヤードから約  $1.5\text{万}\text{m}^3$  の土砂を排出したが、より多くの土砂を排出する考えはあるのか。（鈴木委員）
- 試験運用の結果を踏まえ、年に複数回の運用を検討する。なお、土砂収支

計画における年期待値では年間3万m<sup>3</sup>を排砂することになっている。

- 今後の施設運用について、貯砂ダムを不透過型にしたことにより分派堰が2つあるような状態になっている。このため、ストックヤードに土砂が無い状態でもストックヤード経由で濁水を流した方が、より高濃度の濁水をバイパスに流せる可能性があるため、効率的な運用に向け検討してみてはどうか。

(石神委員)

→高い濃度の濁水を流入できれば良いが、最大40m<sup>3</sup>/sであること、浮遊砂が大半であると予想されることから、どの程度の効果であるかは不明。アイデアとしてはありうるため検討してみてはどうか。(角委員長)

- 資料-3p.16 スtockヤードの影響以前に、三峰川の付着藻類の無機物率は80%程度の高い状態が続いていることが課題と言える。無機物率が高いのが、出水時の影響と平常時のSSが高いことによる影響のどちらが効いているのか定かでないため無機物率が高い理由を考察しておいたほうが良い。(萱場委員)

→ストックヤード運用前後で無機物率が大きく変わらないため問題が無いとは限らない。ベースとして無機物率が高いことに対して対応を考えて行く必要がある。(角委員長)

### 3. モニタリング調査計画

**事務局説明** ■ 高遠ダムの改修によって長期間のフリーフロー状態が発生すること、漁協との現地視察や意見交換を踏まえ、モニタリング計画を変更する可能性があることを説明。

**主な意見等** ● 高遠ダム点検放流に対して下流のSSを観測する必要がある。また貯水池の中の滲筋の変化、崩落状況などを動画や静止画で記録するとよい。(角委員長)

#### 【今後の予定要旨】

- 下流河道の状況を実際に目で見える機会を企画してほしい。(角委員長)

以上